

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（1137））

2. 日 時：平成30年7月19日 10時00分～12時00分  
16時30分～19時00分

3. 場 所：原子力規制庁 9階D会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

名倉安全管理調査官、江寄企画調査官、吉村上席安全審査官、千明主任安全審査官、  
日南川安全審査官、三浦安全審査官、竹内技術参与

（技術基盤グループ 地震・津波研究部門）

山崎主任技術研究調査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：開発計画室 北川執行役員 他20名

東北電力株式会社：原子力部（原子力設備） 担当 他2名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部 建築技術グループ 副長 他3名

中部電力株式会社：原子力土建部 設計管理グループ 副長 他1名

北陸電力株式会社：土木部 耐震建築技術チーム 副課長 他1名

中国電力株式会社：電源事業本部（耐震建築） 担当

電源開発株式会社：土木建築部 建築技術室 担当 他1名

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、本日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請に係る耐震性に関する説明書、津波への配慮に関する説明書について説明があった。

（2）原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

<第595回審査会合【論点9】原子炉建屋基礎盤の耐震評価について>

- 原子炉建屋基礎盤の耐震評価について、前回の審査会合における指摘事項への対応状況を踏まえ、今後の対応方針を整理して提示すること。
- 原子炉建屋基礎盤における地震荷重（せん断力）の分配解析について、評価手法の見直しの経緯、理由等を整理して提示すること。

<第595回審査会合【論点10】地震観測記録を踏まえた耐震評価への影響について>

- 使用済燃料プールのウェル壁が開く挙動について、1次モード（0.99Hz）が支配的であることを前提にしているため、2次以上の高次モードの影響を整理して提示すること。

<第595回審査会合【論点6】設置変更許可段階で示したFLIP解析用液状化強度特性の代表性及び網羅性>

- D2g-3層のN値のプロットについて、これまでの会合資料で示されている試料のN値のプロットとの整合性を確認し、整理して提示すること。

- D2g-3層の液状化強度特性の代表性についてN値や粒度分布を踏まえた考察を加えること。
- 施設毎の液状化影響検討の組合せの設定フローと、建屋の検討方針との整合性が明確になるよう記載の適正化を検討し、整理して提示すること。
- 緊急時対策所建屋の液状化影響検討に関する個別評価について整理して提示すること。

＜第595回審査会合【論点7】鋼製防護壁の上部・下部構造の接合部の評価＞

- 中詰め鉄筋コンクリートの圧縮応力の照査について、設計規準類の基づく照査値を追加すること。
- 鉄筋コンクリート部材の設計荷重を超える荷重に対する各部位の変形性能について、図等を用い、十分な裕度があることの具体的な説明を加え、提示すること。

(3) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

## 6. その他

提出資料：

- ・ 建物・構築物の耐震計算についての補足説明資料 補足-370-12【原子炉建屋基礎盤の耐震性評価に関する補足説明】
- ・ 東海第二発電所 工事計画に係る説明資料 (V-1-1-2-2 津波への配慮に関する説明書)